

資本市場において適切な資金循環を促すという証券業をベースに、
経済の成長や社会の発展に貢献していくことが野村グループの社会的使命です。

基本的な考え方

野村グループは、健全かつ持続可能な資本市場へ貢献していくことを最重要課題の一つとしています。お客様やマーケットの声に真摯に耳を傾け、金融・資本市場を通じた付加価値の高い問題解決

策をお客様に提案し、高品質な金融サービスを提供していきます。また、金融・経済に関する教育機会の提供を中心とした社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

高品質な金融サービスの提供

- 経済の成長や社会の発展に資するために適切で高品質な金融サービスの提供を実施

詳しくは、以下のページをご覧ください。
営業部門▶P20～21 アセット・マネジメント部門▶P22～24 ホールセール部門▶P25～27 コンプライアンス▶P46～47

顧客保護と情報セキュリティ

- 顧客資産の適正な分別管理
- 情報資産・個人情報の適切な保護

詳しくは、以下のページをご覧ください。
コンプライアンス▶P47

環境・社会的課題に対応する商品・サービスの提供

- 社会貢献型債券の引受と販売
- ESG投資の実施

詳しくは、以下のページをご覧ください。
アセット・マネジメント部門▶P23 ホールセール部門▶P27 CSR関連データ▶P74

金融リテラシーの向上

- 毎年100以上の大学に金融教育講座を提供
- 全国の小・中・高校で社員が出張授業を実施
- 時代のニーズに応じた教育プログラムの開発

金融・経済に関する知識と理解は、自立して安心かつ豊かな生活を実現するために重要です。一人ひとりが正しい知識を身につけることで、我が国の金融リテラシーが向上し、健全な資本市場の形成

と適切な資金循環につながります。野村グループは、日本の小・中学生から大人まで、幅広い世代を対象とした金融・経済教育に1990年代から取り組んでいます。

TOPICS

金融・経済教育の普及について

息づく野村の「創業の精神」

「創業の精神」にある「証券報国」は、事業活動を通じて、豊かな社会の創造に貢献するという意味です。この精神は現在まで脈々と受け継がれています。

経営の基本方針では、経済・証券に関する教育機会の提供について定め、毎年約400名のグループ社員を大学へ講師として派遣し、全国の小、中、高校では出張授業を展開しています。

これまでの取り組みと成果

当グループが提供した全プログラムの受講者は、2000年以降累計約72万人にのぼります。大学生を対象とした金融教育講座は年間1万人以上が受講、小・中・高校生向けの出張授業も年間150回以上実施し、約4,700人の方に参加いただいています。その他、社会人向け学習講座、学習教材の配布、株式学習コンテスト「日経STOCKリーグ」、「日経未来投資プログラム」への特別協賛など、さまざまな教育コンテンツを提供し、活用いただいています。

2000年	株式学習コンテスト「日経STOCKリーグ」
2001年	大学向け金融教育講座
2004年	社会人向け証券学習講座
2006年	全国の中学校に学習教材を提供
2008年	全国の小学校に学習教材を提供 小学生向け出張授業「まなぼう教室」
2010年	教員向け金融教育セミナー
2011年	職場体験 中・高校生向け出張授業 「投資って何?」「自分の将来とお金の話」
2014年	「日経未来投資プログラム」 教員と新教材を開発 文科省 土曜日の教育活動推進 プロジェクトに参画
2015年	中学生向けプログラムの刷新 親子向け金融・経済教育番組 「夢・応援・カンパニー」の提供

今後のアクション

ジュニアNISAの創設や選挙権年齢の引き下げなど経済や社会の変化にともなって、金融・経済教育に対する関心が高まっています。当グループは、生きる力をテーマにした教材を学校現場とともに開発するなど、社会のニーズに応じたプログラムを提供していきます。また、次世代の資本市場を担う人材や新しいビジネスをサポートする起業家育成や、誰もが平等に教育を受けられるよう、遠隔地や経済的に困難をかかえる子どもたちへの金融・経済教育の機会の提供に取り組んでいます。また、社会人向けに、より豊かなセカンドライフを過ごすために役立つ金融・証券知識の学習講座を、地域コミュニティや職場の「生涯学習の場」で提供しています。

金融知識への需要は高まっています

本物に触れる経験が、「自ら考え行動する」生徒を育てます。実際にビジネスに携わる人から話を聞くことで、自分の進路を真剣に考える生徒が多いです。複雑かつ専門化していく社会で生きていくため、金融関連の知識は重要であり、豊富な専門知識と経験に基づいてつくられた貴社のプログラムへの需要や期待はさらに高まっていくと考えます。

駒場東邦中学校・高等学校
校長
平野 勲 氏

